

栗野・徒然日記

其の巻・冬

令和二年十一月から綴り始めた「栗野・徒然日記」を、**春(三〜五月)**、**夏(六〜八月)**、**秋(九〜十一月)**、**冬(十二〜二月)**の季節ごとに再編集しました。
栗野の四季折々と日常をつれづれなるままに。

それでは一筆!!

2020.11.29 ちょっとつぶやいてみるけど・・・これでいいのかな？

2020.11.30 朔風払葉(きたかぜこのはをはらう)



・・・冬本番ですね。コロナはもとより、風邪などには十分お気を付けてください。※日本の1年を72等分し、季節それぞれのできごとをそのまま名前にした季節が七十二候(しちじゅうにこう)。「朔風払葉」は北風に落ち葉舞う11月27日から12月1日頃に訪れる季節を言います。

▲岐阜特産の富有柿(お隣の常磐地区にて)

2020.12.2 六花亭のお菓子 Kさんの投稿



文章と写真のレイアウトをどうしたらいいのか、迷いながらブロック編集の中の「メディアと文章」を選ぶと左に写真、右に文章がでます。一度やってみてどんな具合かお試してください。これが投稿されると、また違う画面になるんですよね。このままなら良いのにね。札幌の友人から六花亭のお菓子が届いてワクワク(^_^)

2020.11.30 今夜は満月・ビーバームーン Kさんの投稿



「今夜は満月・ビーバームーン」。
近くの街灯が邪魔ですが、満月を鑑賞しました。

2020.12.3 凜とした空気



日本水仙が、いつの間にか庭で花開いていました。球根がどんどん増えて、狭い庭ではもう限界。そういえば、鳥羽川の土手に彼岸花が植えられていますよね。夏の草刈り時期は、葉がないので、刈り取られる心配もありません。周りが枯れた頃に咲き始める・・・こんな球根類は、野趣もあり、堤に植栽するには良い品種かも知れません。

2020.12.10 閉塞成冬(そらさむくふゆとなる)



一昨日、岐阜市は初霜だったそうです。気付かなかったなあ。今朝も冷え込みが厳しかったので、家の前の空き地に目を凝らしてみると、草の葉の縁に白きものが。射し始めた朝陽に、きらめきながらも溶け始めていました。

2020.12.11 落葉後に巣が現れる

ハナミズキがすっかり葉を落としたら、鳥の巣が・・・。

2020.12.13 今日でホームページ改善講座も終了しました。 Nさんの投稿

全4回の講習で、以前のトップページと比較し見違えるように素晴らしい様相に変化することができました。講師の先生ありがとうございました。少しは編集スタッフも慣れてきて、皆が作成に参加できるホームページになりそうです。とにかく触って試行錯誤して進んでいかなければ進歩はないと思います。ちなみに左に岩野田北まちづくり協議会のロゴマークを考えてみました。皆様のご意見を宜しくお願いします。



2020.12.16 初雪？

昨日が初雪とマスコミは伝えています。確かに、早朝、みぞれ混じりの冷たい雨が少し降りましたが？一転、夜半未明から本格的に雪が降りました。実をつけたモチノキも雪化粧。寒い中で、クリスマスローズのニゲラが健気に花開いています。

2020.12.17 「熊蟄穴（くまあなにこもる）」



▲眉山の雪景色

昨日からの雪が断続的に降り続けています。平野部で30cmの積雪予報までは積もらず、まだ地温が高いのか、道路の積雪も比較的少ないようです。

72候でいうこの時期は、熊が冬眠する時期。そう言えば、15年ほど前に隣の地区の公園で、熊が出たことがありましたね。協議会が実施した第1回目のまちづくりアンケートの設問は、「熊が出たらどうする？」で始まりました。時の経つのは早いもの。以来、まちづくりの歩みは受け継がれてきました。地道に活動を次世代に繋いでいきたいですね。

2020.12.20 霜柱と霜

今季早々と、霜柱が見られました。全国どこでも見られるわけではなく、本州では岐阜県から滋賀県にかけてが西端のよう。冬も晴れる日があるか、水分を含みやすい土質などによりできやすく、必ずしも寒い地方だけに見られる訳でもないようです。霜が空気中の水蒸気が凍って植物の葉などにくっつくのに対し、霜柱は地面の水分が凍ったもの。ただでさえ寒いのが苦手なのに、コロナで閉じこもりがちなのこの冬、社会的孤立に陥らないよう、朝陽に霜が解け始めるころ、暖かくして散歩に出かけます。

2020.12.20 寝寿司の仕込み

Kさんの投稿



こんばんは、飛騨ではこの時期、多くの家庭で、寝寿司を作ります。下呂の魚屋から鱒を注文して、麴・大根・人参・刻みショウガ・ゆずを混ぜ合わせてごはん1升と混ぜて大きな桶に漬け込みました。義母から教わった飛騨の郷土料理です。作り方は、野菜は材料の3%の塩を振りかけ一晩おいてから水けを絞ります。新年会でもあれば持って馳せ参じるのですが、今年は無理でしょうね。発酵させて完成は年末からお正月です。

2020.12.21 冬至かぼちゃ

今日は冬至ですね。ゆず風呂もそうですが、全国的にかぼちゃを食べる風習が見られるようです。美濃地方でも、中風除けに、と食されてきました。最近のご家庭ではどうなんでしょうか。飛騨地方のように、郷土食があるのは楽しいですね。山県市のわらじがんもは、お斎料理でも供されたようです。さて、栗野の郷土料理って何があるかご存知の方は教えていただけませんか。まちづくりの貴重な資源になります。ところで、洒落ではありませんが、21日、京都の「東寺」は、「終い弘法」さんでしたね。骨董市が立ち、多くの人でにぎわいます。今年は、どうなんでしょう。京都では、冬の時期、「大根炊き」(だいこだき)を、参拝者に振る舞うお寺もいくつかあります。これも中風除けを兼ねた風物詩になっています。まちづくりの参考になりそうです。

2020.12.22 「乃東生」 (なつかれくさしょうず)

「乃東」とは、ウツボグサのことだそうです。このあたりでは、畜産センターの北側の荒地で見たことがあります。草が枯れゆくこの時期に、力強い芽を出し始めます。一方、「乃東枯」(なつくさかるる)は、6月下旬ごろ青々と茂りゆく野山で、ひっそりと枯れ始めるウツボグサの様子で、正反対の季節となります。ウツボグサではありませんが、庭の「山芍薬」の芽が、春を待ち望んでいます。一方、先日の雪にもかかわらず、まったく日の当たらない建物の北側で、最後の力を振り絞って咲く「大文字草」の姿がありました。この冬は、厳しい寒さの予報。一日一日と日照時間が長くなるこの時期ですが、寒さはいよいよ本番を迎えます。



▲枯れゆく草も日差しに輝いていました。



▲大文字草が力を振り絞って咲いています。



▲鉢植えの山芍薬が力強い芽をのぞかせ春を待ちわびます。

2020.12.23 空撮映像

ドローンを使って、コミバスも撮影。YouTubeにアップされました。画像を切り出して、発行予定の「コミバス通信」に掲載したいと思います。



▶ まちづくり協議会
まちづくり協議会とは
活動情報
まちづくり協議会設置状況
豊田地区活動の推進 一覧に 戻る

まちづくり協議会設置状況

まちづくり協議会一覧【令和2年3月31日現在】

「水と親しむ西郷まちづくり推進協議会」

協議会名称	設立 年月日	ホームページ	広報誌 (随時更新します)	まちづくり ビジョン
京まちづくりの会	H16.5.31	「京まちづくりの会」	きょうまち	
岩野田北まちづくり 協議会	H16.10.2	「岐阜市岩野田北まちづくり協 議会」	STEP	
響 明るい白山まち づくりの会	H17.1.7		響明るい白山まちづく りの会	
水と親しむ西郷まち づくり推進協議会	H17.4.19	「水と親しむ西郷まちづく り推進協議会」	会報さくらまちづくり	
芥見南安心・安全な まちづくり委員会	H17.7.25		芥見南自治会連合会・ 芥見南まちづくり委員会	芥見南地域ま ちづくりビジョン
鷺山まちづくり協議 会	H17.8.30	「さざ山の広場」	ホームページに掲載	鷺山地域のま ちづくりビジョン

おはようございます。（役所のものではございません）（;^_^A）

まちづくり協議会設置状況 | 市民活動交流センター -
Community Activity Exchange Center (g-mediacosmos.jp)

2020.12.26 「麋角解」（さわしかつのおつる）



▲金華山に徒歩で昇りました。岐阜城天守閣から市内北西を眺望。

今年ももう終わりですね。この時期には、雄鹿の角が根元から自然に落ち、春に生え変わります。年忘れにふさわしいですね。新たな気持ちで新年を迎えたいものです。

今年は期待された大河ドラマ景気も、水を差されました。それでも「大桑城へはどうやって行くのですか？」と尋ねられる経験をした方も少なくないと思います。郷土の歴史を今一度、見つめてみることは、明日へのまちづくりに欠かせませんね。

2020.12.29 今季のどんぐりは不作なの？

今期のドングリは不作との報もあります。ドングリと称される樹木は、我が国には20数種類あると言います。反骨心旺盛な個体もあるでしょうから、一概には言えないのかも知れませんが。栗野台の斜面の自然林では、沢山のドングリが地面を覆い尽くしていました。カシの仲間かな…。

今のところ、県内でクマ出没の便りは、あまり聞きませんね。ちなみに、俳句では熊は冬の季語だそうです。冬眠するはずの冬なのに…。昔も食べ物がなくなる冬になると、里に出没したのでしょうか。明日から寒波襲来の予報。寒さに人一倍弱い私は冬眠させていただきます。

2020.12.29 『少年と犬』 Kさんの投稿



今年も後、2日となりました。コロナは一向に収まる気配がなく、岐阜県内でも毎日感染者が増えています。忘年会もなく、人にも会えず人を避け・・・遠くの子供たちも来ない寂しい年の瀬とお正月。それでも、習慣とは恐ろしいもので、つつい正月料理の黒豆やなますを作り毎日、多忙です。そんな日々ですが、先日、この本を読んで本当に心にしみたので、ちょっとご紹介します。著者は馳星周（はせ・せいしゅう）さん。この本は、今年の7月に発表された第163回の直木賞の受賞作品です。人気の本なので図書館でも予約続きでなかなか借りることができませんでした。皆さんの中には、もう読まれた方があるかも知れませんが、最近読んだ中では忘れられない本になりそうです。最後はジュワ〜ンと涙が滲んでしまいました。犬が好きな人もそうでない人にもお薦めしたいです。

HPの充実を応援しています。来年が良い年でありますように。

2020.12.30 犬に学んだこと



ご紹介いただいた本、一度読んでみたい。我が家にもまもなく19歳になる雄の老犬(シーズー)がいます。もう耳も目もほとんど機能を失っています。散歩中、コケることも多くなりましたが、それでも服にホッカイロを貼って、頑張っています。犬を亡くして、ペットロスになる人も少なくありません。絵本「虹の橋」は、一生を終えた犬が、虹の橋のたもとで飼い主を待ち続け、やがて一緒に天国へ登っていく、というストーリーです。人気の一冊ですが、亡くした悲しみに寄り添ってくれるかは、人それぞれだと思います。犬に教えられたことがあります。中でも、常に前向きなこと。人間のように落ち込んだりはしません。ちなみに、栗野で暮らしている飼い犬の数は、11月4日現在、477頭(1世帯当たり0.15頭)です。くれぐれも「ふん」の後始末はよろしく。

2021.元旦 屠蘇袋



雪のせいだけではなく、除夜の鐘も響かない、静かな年越しとなりました。明けましておめでとうございます。子どもの頃は、年末に床屋さんに行き、元旦を迎え、一張羅を羽織り、写真撮影をし、家族そろって三重箱(実家は陶器製でした)にそれぞれ詰められた数の子、黒豆、田造りを囲み、お屠蘇を順に注ぎ回した(子どもも少しだけ舐めた)ものです。豪勢な膳ではありませんでした。親戚に何うといくつお餅を食べたかを尋ねられたものです(お雑煮については後日書きますね)。さて、その屠蘇袋が、最近では入手困難。少し前までは味醂の販促で配られていたのですが。近所の酒屋さんが少なくなったせいもあるのでしょうか。栗野西のドラッグストア・Gのレジ近くに置かれていて、ここ数年、この店で入手しています。店員さんによると、数は仕入れていないそうです。今回は中国製だった気がしますが、今回は東大阪市の業者が製造と記載されていました。ティーパックのような袋に、7種の漢方素材が2g詰められていて定価98円、酒と味醂と砂糖を加えてお召し上がりくださいと記されています。我が家は父の代から酒だけです。家族は皆、あえては欲しません、私は毎年欠かせません。年々お正月らしさが薄れゆく中、この袋には非日常が凝縮されている気がします。お屠蘇気分が抜けないまま、地域のまちづくりビジョンへの意見募集は、1月10日までです。公民館までお寄せください。今年もよろしくお願い申し上げます。

2021.1.2 お雑煮



全国で100を超える雑煮があると言います。あなたの故郷の一品はどんなお雑煮でしょうか？美濃から愛知にかけては、ご存じの切り餅、もち菜(小松菜の1種)、かつおだし、醤油のいわば日本一のシンプルなもの(愛知は味醂をいれるみたい)。かつお節を振りかけていただきます。私は好きです。一説には織田信長公の儉約の影響とか。丸餅ではなく切り餅が使われます。子どもの時分には、まだ臼でつく音が隣家から聞こえ、振動が伝わることもありましたが、「餅は餅屋」、街中ではのし餅を届けてもらい家庭で切り餅にしました。固くなりすぎてもいけません、届いたばかりは柔らか過ぎて刃にくっつくので、しばらく時間を置いてから切り分けたものです。大根で包丁の刃を湿らせては、縦横に刃を通します。1個あたりは、今売られているサイズの倍はありました。そんな大ぶりの餅を「7個食べた」とか、大人は自慢していました。今ほど豪勢なお節ではなかったため、沢庵をつまみでは、ちょうどいい塩加減に箸が進んだのでしょうか。昭和40年代頃からでしょうか、日本人の食生活は随分豊かになりました。一方で、古々米など米余りが生じ、米消費拡大政策も効果がないまま、減反政策、耕作放棄地の増加、貯水機能などさまざまな影響をもたらすこととなります。栗野でも田んぼを住宅に転用する光景が一気に進みましたね。

2021.1.3 氏神さん



50年前に栗野西に引っ越してきた際、地付きの方に、地域の氏神さまを教えてくださいました。南宮神社(栗野西6-661)です。中学校の西北に位置するこじんまりとした境内には、当時は、天を突く御神木がありました。氏子ではありませんが、以来、年明けにお参りさせていただいています。今年も、無病息災を祈りました。

2021.1.5 ごみ出し初め



今年最初の普通ごみ収集日。栗野は火・金曜日コースなので、年末29日(火)から1週間ぶり。それでも地域で設置した収納コンテナに収まっていた(7:20am)。高齢化、核家族化で廃棄量が減っているのに加え、里帰りを自粛したコロナ禍の影響もあるのかも。高度成長期のごみの増大は右肩上がりでしたが、リサイクルの取り組みをはじめ、ごみ減量意識が浸透しました。「雑がみ」のリサイクルも家庭でできるまちづくり。資源分別回収や自治会連合会にあるリサイクルボックス(岩野田北公民館に設置・平日午前中)へ。

[※雑がみのリサイクルは、市のホームページを参照](#)

Kさんからの年賀状



明けましておめでとうございます。

今日から仕事始め、コロナでがんじがらめの年明けですが、元気で乗り切りましょう。

2021.1.6 冬眠柿?



岐阜特産の富有柿。11月に新聞紙でくるみ、冷蔵庫に保存しておきました。お隣の常磐地区で路上販売されていた4個100円の柿を2袋買い求めたのですが、全部硬いままで今年は大成功。美味しくいただきました。

面倒な方には、冷蔵柿としてスーパーに並んだり、通販で入手できます。ただし、お値段は高めですが。



◀甘味はしっかり残っています。

2021.1.7 鮎の赤煮



今日は、七草粥。正月に疲れた胃腸をいたわり、不足しがちな青物を摂取する昔からの知恵ですね。と言いつつ、昨日に続き、岐阜の特産シリーズ。11月に知人からいただき冷凍にしておいた鮎を甘露煮にします。このあたりでは、赤煮とも言いますね。天然ものらしく砂を嚙んでいたもので、はらわたは残念ながら取り除きました。おいしく煮付けるための隠し味が、ウナギのたれ。ちなみに最近では、ウナギにまで「アミノ酸」が添加される時代で、無添加のたれはほとんどスーパーに並びませんが、スーパーSに、無添加の物と2種類が売られていました。(醤油に少量添加されていると原材料表示だけでは判断できないのかな?)

インスタントラーメンなどに使うのは許せても、素材を味わうもの、特に、もともとおいしいはずのウナギにまで添加するのはどうなのでしょうね。

話がそれましたが、この隠し味のおかげで、仕出し屋の味になりますよ。ぜひお試しあれ。

2021.1.8 雪中梅



新潟の酒の銘柄ではありません。写真は鹿児島紅梅という早咲き種ですが、通常は2月に開花します。今年は例年になく早い開花が見られました。折からの積雪で、新年早々の雪中梅が見られた次第。梅は縁起物と言われ、魔よけの意味もあるとか。一刻も早いコロナの終息を願わずにはられません。

路面はひどく凍結しています。お互い気をつけましょう。

2021.1.15 蒲公英(タンポポ)



子ども時代を、金華、京町地区で育った私は、絵本で有名な、あのタンポポを見たことがありませんでした。いつ、どこだったか記憶していませんが、初めて見たときは、随分と感動した気がします。

それはともかく、今朝は冷え込みがきつかったですね。田の畦道で霜に耐えるタンポポの花を見つけました。普段、当たり前と思って見ている風景も、実は当たり前ではないのかもしれない。

もう一度、周りを見渡してみようと思います。

2021.1.16 二毛作



小学生の頃に習った「二期作」と「二毛作」。主に田んぼで米を二回作るのが前者、後者は米の収穫が終わった後に別の作物をつくることでした。暖かい地方で行われていた二期作も、米余りで今も行われているのかしらん。二毛作の、いわゆる裏作で、水田で代表的なのは麦ですね。でも専業農家が少なくなった今では、見ることも少ないのでは？ 雪下出麦(ゆきくだりてむぎのびる)候。お隣の常磐地区では、陽を遮るものがない田で、雪はもう解け、そんな写真は撮れなかったけれど、しっかり育っています。初夏には文字通りの麦秋で、一面、金色の田が夕焼けに輝く景色が見られます。農村風景を見られる常磐や西郷の風景が、私は好きです。藁や草を燃やす野焼きは、過敏症の方も見えたり、住宅地からの苦情もあつたりで、肩身の狭い身に。でも、何となくあの香りも好き。市街化により地域の特色が薄れゆく中、粟野が発信できるものは何でしょう。掘り起こしたり、新たな付加価値を生み出しても良いし。大切に作るもの、新たな創造、まちづくりの楽しみです。

2021.1.17 阪神・淡路大震災から 26 年が経ちました



平成 7 年 1 月 17 日午前 5 時 46 分に発生した大震災から、26 年が経ちました。遠く離れた岐阜でも、深い地の底、はるか遠くから低いうなり声のようなものが聞こえ、次第に近づいてくる感じが耳の奥にこびりついています。

阪神・淡路大震災では、被災がれきの下から市民によって救出された人が約 2 万 7,000 人で、警察・消防・自衛隊によって救出された人（約 8,000 人）の 3 倍以上であったと言います。大規模災害時には互助・共助、すなわち地域コミュニティの担うべき役割が重要であることが証明されました。日頃からの隣近所での備えが大切です。各家庭における防災グッズや食料備蓄など、自助も必要です。濃尾大震災から 130 年が経ちました。南海トラフ地震が懸念されていますが、さかのぼると東海地方では、おおむね 120 年ほどの周期で大きな地震が起きています。常に備えが欠かせません。写真は、昨年 11 月 8 日の岩野田北地区防災訓練の様子。コロナ対策を講じた避難所設置・運用訓練が、自主防災組織で行われました。

2021.1.17 左義長



伊奈波神社では、左義長神事の日。私が子どもの頃は、どんど焼きと言って、広場でしめ飾りなどを、焚火で燃やしていました。竹の棒の先に、針金で括り付けた正月の餅を焼いて、家に持ち帰り食べたものです。1 年無事に過ごせるとか。焦げ付いた炭の味しかせず、うまいものではありませんでしたが。

左義長の野焼きは、市の条例でも特例で許されているようですが、それは、純粋に自然由来の藁などに限られるのでしょうか。橙も 30 年ほど前からでしょうか、プラスチックに代わりましたね。伊奈波神社では、昨年までは、広場にお札やしめ飾りを納める場所が設けられていましたが、不法投棄が後を絶たなかったのでしょうか。今年からは、社務所で巫女さんが、中身を確認して納められるようになりました（昨年、撮影しておけば記録になったのに残念）。写真は、お札を納めに行った 1 月 13 日に撮ったものです。どういうわけか、レトロな感じがしませんか？ 昔ながらの風習は、どんどん変化しているというのに。

18 日（最近では世の趨勢で日曜日開催）の大龍寺さんのだるま供養は、コロナのせいで中止になりました。昔は、この日にしめ飾りなどを納めに出かけたものですが、今は廃止されました。

2021.1.18 霰(あられ)



今朝は、雪ではなく、霰が降りました。午前中に、日差しが戻りましたが、風がとても冷たく感じられます。そう言えば、昨冬は雪が降らなかった中、ただ一度降ったのが霰でした。小さな粒がコロコロ地面や葉の上を転がるのを見ると、ついつい、「雪やこんこ 霰やこんこ」の童謡を口ずさんでしまいます。ちなみに、柳ヶ瀬を車で通り抜けましたが、降った様子はありません。長良川をはさむと雪の深さが違う、は正解。ただ、冬も終わりに近づくと、南から吹き込むことがあります。なので時期によっては、不正解ということになりますが、反対する人はいなさそうです。

切り株と生えた茸も、白粉(おしろい)で化粧したみたいです。

2021.1.19 山頂に薄雪、川に野鳥



今朝も冷え込みましたが、道路は濡れているだけ。でも、山々の中腹から山頂にかけては、うっすらと雪化粧。鳥羽川をのぞき込むと、水際に身を寄せ浮かんでいた十数羽の鴨が一斉に飛び立ちます。鷺は魚を狙っているのでしょうか。朝陽に山並みが輝き始めます。

「水泉動」(しみずあたたかをふくむ)の候、凍っていた泉の水が少しずつ動き始めるのは、まだまだ先のような気がします。

明日は大寒。

2021.1.21 おこうこ



おばあちゃんは沢庵のこと、「おこうこ」と言ってませんでしたか?「御香香」、漬物の丁寧な言い方だそうです。関東では漬物全般を指し、関西ではおこうこは沢庵のことらしい。我が家では毎年、11月頃、大根を10日ほど干して、樽に付け込んでいます。材料は、粗塩と糠と鷹の爪のみ。これで美味しい「おこうこ」が一月ほどで完成します。ところで、最近は漬物専用の細長い大根の入手ができなくなりました。農協のおんさい広場に行くと、たまに太い大根に交じって数本肩身が狭そうに売れ残っていたことはありますが…。一昔前、三輪のスーパー風の八百屋さん「つじや」で、干し大根を束にして売っていました。泥がついたままの品もたまに見られましたが、何回か買い求めたことがあります。今では、コンビニに変身してしまいました。最近、干し大根はインターネット通販でも見られますが、べらぼうに高額です。

13日のNHKの朝イチで、漬物を特集していました。植物由来の乳酸菌は、ヨーグルトなど動物性の乳酸菌より腸に滞在する時間が倍以上長いそうで、便秘改善などに、より効果があるとか。主に糠漬けを紹介していたので、沢庵には効果がないのかと思いましたが、立派に乳酸菌が住み着いているようです。塩分を気にすることも多いのですが、塩分を輩出する働きのあるカリウムが豊富で、繊維分もあるため、思ったより気にしなくても良いと、テレビでは言うておりました。

それにしても、いつまで重石を持ち上げられるやら。

2021.1.24 「欺冬華」 (ふきのはなさく)



昨日今日は、ちょっと暖かい気がしますね。羽島市でフキノトウが顔を出したと、今朝の朝刊に載っていました。羽島から海津市にかけてはスノータイヤを履いた経験のない人もいるようですから、芽吹きも早いかも。粟野はまだまだですよ? さて、写真はフキノトウではありません。昨日からの雨で膨らんだ庭の福寿草の花芽です。おめでたい名前ですが、実は毒草(薬草でもありますが)で、フキノトウと間違えて事故に至るケースがあると言います。岐阜市内には、野生していないとは思いますが、山菜採りの際には、くれぐれもお気をつけのほど。

2021.1.25 思い込み



昨日までの雨が上がりました。冬晴れの日、伊吹山が輝きを増します。過去に、最も雪が積もったという最深積雪記録は、実は伊吹山。昭和2年2月14日とのことで、その記録は11.82m、世界中の山岳観測記録史上でも1位だそうで、いまだ破られていません。

ところで、つい最近まで私は、伊吹山は岐阜市内ならどこからでも見えるものと、なぜか思い込んでいました。栗野からは一度も見たことはないのに。中心市街地からよく見ていたためでしょうか。

ほかに思い込んでいること、沢山ありそうです。

「あなたの能力に限界を加えるものは、他ならぬあなた自身の思い込みなのです。」(作家・ナポレオン・ヒル)。いまさら…?

2021.1.28 鳥



▲ぐるっとバスのマスコットは、カワセミをモチーフにした青い鳥。

庭の赤い実がいつの間にか食べ尽くされてしまいました。最後まで残っていたモチの実(不味いらしい)も、すっかりなくなりました。訪問者はおそらく写真の鳥。ヒヨドリです。餌台をこさえミカンを置いて置くと、何羽も食べにやって来ましたが、鳥インフルが心配なので、昨今はやめています。ところで、昨夏の深夜のこと、フクロウの鳴く声を聞いたと話しても、信じなかった妻が、ふと窓から覗くと、フクロウの光り輝く眼と、眼があったとか。

10年ほど前には、栗野台を散歩していたら、大きな鳥が急降下してきて、我が家の小型犬がさらわれかけたこともありました。市の北部の山林にはオオタカの営巣地があるので、決して不思議ではありません。このあたりもテリトリーなんでしょうね。

鳥羽川で、カワセミを見かけた人も少なくないでしょう。“ぐるっとバス”のマスコットは、そのカワセミをモチーフにした幸せの青い鳥。

地域の皆さんに支えられながら、試行運行から1年半。ふと気づくと、そこに青い鳥…みんなでコミバスを育てていきたいですね。

2021.1.30 水沢腹堅（さわみずこおりつめる）候



町が凍てつく朝。とはいえ、さすがにこの辺りでは、沢水(流れる水)が凍るようなことはありません。雪が降った明け方近くは、月が雲間に冴えます。それにしても暖冬の後の今季の寒さは、身にこたえますね。眉山もすっかり雪に覆われました。

2021.2.3 立春と節分



今日は立春。その前日が節分。節分は2月3日とばかり思っていました、地球が太陽を回る周期の関係で、124年ぶりに2月2日の節分となったそうです。

年齢の数だけ豆をつかむと健康でいられるとも言いますが、年齢に適した数を食べるのがそもそもの趣旨でしょうか。つかんだ数が年齢と同じだったら、一番近い四つ角に置いてくるといいう風習が、西日本に見られるようです。市内ではあまり聞きませんが、中濃辺りで伝わっている様子。栗野に引っ越してきた頃、私も2年連続でビンゴし、寒い中を置きに行ったことがあります。年齢の数だけ数えてから置きに行くなど、地域によって多少異なるようです。

昔は遠くから、鬼は外～の音が聞こえてきたものですが、もうずいぶんと聞いたことがありません。あなたの地域では、いかがでしょう？

2021.2.4 ぶんたこ



“ぶんたこ”とは、よもぎ餅のこと。諸説あるらしいが、蓮如上人の大好物だったとか。

羽島のみそぎ団子も別名を味噌付けぶんたこと言うらしい <https://hashima-rekimin.jp/daidaimaturi.html>。みょうがぼち(稿を改めて空豆の季節が来たら書きますね)と同様、ぶんたこぼちと言うことも。ちなみに、“ぼち”は餅の訛り。

スーパーでは、桜餅とパック売りをよく見かけますよね。道の駅ラステン洞戸では、洞戸産のよもぎとコシヒカリの上新粉、北海道産の小豆でこさえたものを販売することがあるらしい。里の春が“ぶんたこ”には詰まっています。県内には、美味しいと言われる名店が何軒もあります。柳ヶ瀬本店の T 屋さんの草もちも風味豊か。中心市街地活性化、さらには名古屋にも進出し、岐阜市を発信し、頑張っておられますね。

写真は、栗野東の N 堂さんの草餅。

手作り感が満載のぼってりした、まさに“ぶんたこ”です!

2021.2.4 GCS の HP で紹介 K さんの投稿



おはようございます。

いつも楽しみに拝見しています。

下記の HP で紹介させていただきました。

[GCS\(ぎふコミュニティづくり支援の会\)](#)

2021.2.6 東風解凍（はるかぜこおりをとく） and 花粉舞う



春風(東風)が氷を溶かし始める候。と言うか、今日は、汗ばむほどのポカポカ陽気。関東では、観測史上最速の春一番が、立春の日に吹いたそうです。

一方、花粉情報も流れる今日この頃。半世紀前には、花粉症などという高尚な名前ではなく、一くくりに鼻炎と言われ、アレルギーのある私などは、片身の狭い思いをしたものです。山林に身を寄せる栗野には、昔からの共有林があり、組合も組織されています。

戦後になっても、しばらくは学校を建てる時に、戦前同様、木材や労務提供などを地域で行ったと言います。一方、教育そのものは学校にお任せで、焼け跡の時代から今日までの長い時間をかけて、「教育自体が、学校や地域社会の協力によって行われるべき」とするPTAの設立理念が、ようやく今日のコミュニティスクールなどにも見られるようになりました。地域ぐるみで子どもの成長を育て、見守ることは、今や地域に共通のテーマですね。

2021.2.8 仙人掌(サボテン)の花



仙人掌は、一般的には夏の季語とされています。“君が育てたサボテンは小さな花をつくれた 春はもうすぐそこまで 恋は今終わった～♪” ご存知、財津和夫作詞・作曲の名曲「サボテンの花」。季節は2月頃でしょうか。サボテンは、春咲きの品種が多いと思いますが、窓越しに陽を浴びて、早々と花をつけたのでしょう(写真も8日に撮影した小さな花)。

サボテン苗の生産量では、愛知県が有名ですが、全国最大規模のサボテンの出荷を誇っている農園が瑞穂市にあります([株式会社岐孝園 | 日本一のさぼてん村 \(saboten.co.jp\)](http://saboten.co.jp))。作付面積が日本一とも世界一とも言われる農場は、栗野から車で40分ほど。水田で育てるというユニークな発想の栽培法も有名。継続と行動力と柔軟な発想…まちづくりに通じるものがあるかも知れません。



今日の昼休み、時間ができたので勤務地の近所である梅林公園を訪れてみました。もうかれこれ10年ぶりくらいかな……自宅の庭にもピンクのしだれ梅があつて、5輪くらいはすでに開花しています。岐阜の名所の梅林公園はもう相当に開花しているかなあつと…少し期待して。でも、やはり、まだ早いようで。そうですね二分か三分咲きつてところでした。やはり、梅林公園は素晴らしいなあつてあらためて、まだ咲き誇っていないいろいろな梅の木々を見ながら感じた今日でした。

皆さんも今月下旬か、来月初めには訪れてみてはいかがでしょうか。

2021.2.10 需要あり?



店舗も医院も多い、生活に便利なまち。まちづくりのアンケートではそんな回答が多く寄せられています。それにしても、こんなにスーパーやドラッグストアが近接していて、余計なお世話かも知れないけれど、共倒れしないのかとふと心配になる。近隣地区も含めたコミバスの運行区域で言うと、7店舗のスーパーやドラッグストア、17の病院に恵まれています。コンビニがもう少しあると良い、との意見もあるものの、夜間も利用者がいないと採算は難しく、どうしてもバイパス沿いになりますね。そう言えば、1月22日は、「カレーの日」でした。地区のコンビニはセブンイレブンとファミリーマートですが、少し歩くとローソンもあり、開発商品の「やりすぎパン」を買いました。激辛カレーパンというだけあって、辛いもの好きでも結構、舌が痺れる。これは、ほかのカレーパンでは物足りなくなるかも。でも、需要があるのかしら。スパイシーカレーパンは沢山あったけれど、やりすぎの方は、一つ残っていただけ。そもそも仕入れが少ないのかも。Yパンの肉まんが、一昨年は確かショウガ肉まんだったという好みの品があったのに、昨年の冬から見かけなくなった。レアな需要には応えられないのが企業の宿命。やりすぎパンは、生き残れるのかしら。

振り返れば、みんなの参加で、住民ニーズに柔軟できめ細かな対応が求められるのが地域のまちづくり。レアなニーズや発見も、大事なまちづくりの芽です。

2021.2.11 公園アラカルト



ボカボカ陽気に、お出掛けしたい気分。地域には6箇所(うち3箇所は栗野台団地)、あわせて5,639 m²の公園があります。まちづくりアンケートでは、近くに遊べる安全な公園が欲しい、との意見が多く寄せられました。小学生の放課後の遊び場所は、と言うと近くの公園が49件、家の中が78件(4年生対象調査)。ところで、公園に高齢者の健康遊具を設置した地区もあります。ちなみに写真の山県市役所前の広場にも、それらしき遊具(座って体を捻る動きをします)が、3つほどあります。他都市では、高齢者向けの健康遊具を設置するケースも増えているようです。[公園の遊具が高齢者用に \(kyoeikasai.co.jp\)](http://kyoeikasai.co.jp)

遊具を利用する健康教室も良い企画ですね。

写真は、お隣の山県市役所前の「みんなの元気広場」。栗野台団地からは、歩いて15分はかかるかな。健康記念の日、春のような陽の逆光を浴びる子どもたちの姿が。

2021.2.13 花ごよみ・福寿草



日差しがないと、気温ほど暖かく感じないものですね。一方、1月24日の日記で紹介した福寿草が、ここ数日の暖かさで開花しました。北側の陽の射さない場所で、しかも、天気予報に反する曇天気味の空のもとでも、機嫌よく咲いています。夕方近くなり、花は一斉に閉じて、おねんね。

2021.2.15 雨水(うすい)間近



今日はまとまった雨になりそうですね。降った雨は、田に沁み込み、側溝に流れ、川に注ぎます。当然のこと??? 上の写真は、栗野台のマンホールです。下の写真左は、公民館の前の道路のマンホール。「おすい」の記載がある点が異なっています。マンホールのデザイン愛好者が増えているとか。日本マンホール蓋学会なるものまで組織されています。人気は、やはりアニメやご当地キャラ。岐阜市のデザインは当然、鶺鴒。背景は竹籠ですね。ところで、昭和30年代半ば、民放テレビで「水道完備、ガス見込み、あなたの町です夢の町♪」の歌で始まる連ドラが、15分枠で放送されていました。ドラマでは都市ガスが引かれる気配はなく、もちろん下水道のことは全くアンタッチャブル。栗野に下水道が整備されてから、まだ10年も経ちません(都市ガスも同じ時期だったと思いますが)。市の下水道は、昭和12年に全国で5番目に処理場が稼働し、しかも雨水と分ける分流式という画期的な方式を全面採用する全国初の都市として、水洗トイレを普及させました。

[4D6963726F736F667420576F7264202D208AF2958C89BA908593B95F8DC58F498CB48D655F8D5A90B38DCF82DD2E646F63](http://www.jst.go.jp/4D6963726F736F667420576F7264202D208AF2958C89BA908593B95F8DC58F498CB48D655F8D5A90B38DCF82DD2E646F63) (jst.go.jp)

これに対して、雨水と下水を一緒に集水する合流式の都市もあります。その違いを研究するのも楽しいかも。



◀「おすい」の文字が表示されています。

▶お隣の山梨市のマンホールのデザインは、山梨市の花「キキョウ」、市の木「クリ」そして「ホタル」を配しています。



2021.2.22 金のなる木



年末から早春にかけて花開く“金のなる木”は、別名を「花月」という多肉植物。新芽が小さいうちに、5円玉の穴に通しておき、そのまま成長させて、枝にお金になったようにして観賞したことから、そう呼ばれるようになったと言います。その意味ではモチノキや南天など、もともと名前に由来する縁起かつぎの木とは、由来が異なりますね。

まちづくりの取り組みとして耳にするコミュニティビジネスは、一般的には「ビジネス手法で地域課題を解決」することを言います。しかし、住民のための生きがいづくりやまちづくり活動の資金源というノリで良いかも。市内でも資金獲得の取り組みを実践している地区があります。ところで、「岩野田の歴史を語る会」の方の話によると、昔、鳥羽川のホタル狩り(見物)に電車で訪れる人に、子どもたちがホタルを売って小遣い稼ぎをしたとか。

コミュニティビジネス、案外身近にあるのかも。

2021.2.24 草木は不惑(まどわず)



全国で2月の観測史上最高気温を13日に記録したかと思ったら、17日の夜からの積雪。数日後には今度は4月から5月並みの暖かさ。三寒四温と言っても、極端過ぎます。人間が戸惑っている間にも、草木は決してぶれることなく、春の訪れを感じているよう。

「草木萌動(そうもくめばえいずる)」季節はもうすぐそこまで。

2021.2.25 リモート研修会に参加しました



市民活動交流センターが開催したリモート研修会「地域力UPセミナー」に参加しました。講師は岐阜協立大・菊本舞先生。テーマは、「持続可能なまちづくりを考える～まちづくり協議会のガバナンス強化に向けて～」。「ガバナンス強化のためには、拠点づくりも必要」、「事務局の人件費は議論になりうる」とのこと。明石市が地域交付金として「コミセン(岐阜市のコミセンと異なり各小学校に設置された施設)管理運営」と「地域事務局運営」を一体的に、補助対象としているとの紹介もありました。岐阜市での同様の施策の方向性についてお考えをお尋したところ、「施設管理とまちづくり機能をセットで考える」ことも、今後必要ではないかのご見解でした。

公共施設の指定管理を、地域で担う時代も間近かも？

地域のまちづくりを軌道に乗せるため、地域のガバナンス強化のための施策について、地域に即した制度設計が期待されます。みんなで考え、提案していきましょう。

季節は春を迎えました。

「栗野・徒然日記 その2・春」を引き続きご覧ください。